

発 刊 に 寄 せ て

■南信州地域の農業

当地域は、山間傾斜地が多く1経営体当たりの経営耕地面積は81aで県平均の148aに比べ狭いものの、温暖な気候に恵まれ標高差や地勢を活かした多品目の果樹、野菜、花き、きのこが栽培されているほか、肉用牛、養豚等の畜産も盛んです。

特に、特産の「市田柿」は、平成28年に農林水産物等の地理的表示（GI）保護制度に県下で初めて登録されるとともに、1921年から「市田柿」として販売して100年経過し、輸出についても台湾をはじめ東南アジアを中心に70tを超えるなど、更なるブランド化を進めています。

また、地域の特性を活かしてお茶や信州の伝統野菜も各地で栽培されているほか、6次産業化の取組も盛んで、最近では管内で醸造されたシードルが各種コンクールに入賞されています。

農業を取り巻く様々な課題がある中、当センターにおきましては、農業者及び関係機関・団体の皆様と連携して、南信州らしい特徴ある農業・農村の振興に取り組んでいます。

■本年度の普及活動の取組

本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら普及活動を展開してきました。加えて、ウクライナ情勢や円安により肥料、飼料等の価格が高騰し農家の経営に影響を及ぼしていることから、相談窓口を設置するなど対応してまいりました。

本年度は第3期長野県食と農業農村振興計画の最終年度であり、同計画の6つの重点戦略に基づく普及活動計画を策定し、農業者や関係機関・団体との連携、役割分担により活動を展開してきました。

特に地域で重要かつ緊急的に取り組むべき課題を「重点課題」に位置づけ、次の2課題についてプロジェクトチームを設置し課題解決に取り組みました。

【重点活動】

○改・新植に係る課題解決による日本なし産地の生産力向上

当地域の果樹の基幹である日本なしの産地の再構築を図るため、令和4年6月に「日本なし産地再生プロジェクト」を立ち上げました。同プロジェクトと連動して、本年度から白紋羽病や胴枯病による改植障害の回避やジョイント仕立て等による改・新植の面積拡大に取り組んでいます。

○地域性を活かした魅力あるきゅうり経営の推進

当地域の主要な品目のきゅうりについて、2年目となる本年度は、市田柿との複合経営における導入手引書の作成や新規栽培者の技術向上に向けた病害虫対策、カイゼン手法の導入など重点対象者の個別巡回や集合研修などにより支援しました。

【一般活動】

振興計画の重点戦略に基づき、一般活動課題として、多様な担い手の確保育成や生産力の向上、地域の活性化等に取り組みました。

特にスマート農業技術については、スマート農業機器の実演展示やお試し導入、補助事業を活用したドローンの導入支援、ドローンを活用した集団防除など実践段階での成果が上がっています。

■将来を見据えて

本年度の普及活動に御理解、御支援をいただきました多くの農業者や関係機関・団体の皆様に改めて感謝申し上げます。ここに、令和4年度の普及活動の成果を「普及活動実績集」として取りまとめましたので、南信州地域の農業振興にご活用いただければ幸いです。

当地域はリニア中央新幹線等交通インフラ整備により、地域を取り巻く環境が大きく変わりつつあります。今後も農業を取り巻く情勢の変化に配慮しながら関係機関等と連携を密に普及活動に取り組んでまいります。 令和5年3月

南信州農業農村支援センター所長 佐々木直人